

平成30年度佛教大学法然仏教学研究センター活動報告

第一部門 法然文献班 元亨版『和語燈録』本文・現代語訳対照本作成

班長 角野玄樹

研究組織および専門分野

伊藤 真宏	研究員（浄土学・日本仏教文化史）
市川 定敬	研究員（法然浄土仏教思想研究）
角野 玄樹	嘱託研究員（法然文献研究・法然思想研究）
齋藤 蒙光	嘱託研究員（法然浄土教）

平成30年度の研究

本紀要創刊号所載の活動報告において示したように、当班は、元亨版『和語燈録』の本文・現代語訳註本を完成させる目的で研究活動を行っている。また、当班は、故岸一英教授の追悼出版の後方支援するためのものであり、その基となるものが、佛教大学四条センターで行われた『和語燈録』の連続講義の担当者（岸一英氏、藤堂俊英氏、眞柄和人氏、本庄良文氏、安達俊英氏、善裕昭氏、伊藤真宏氏、角野）が作成した現代語訳や資料である。

昨年度1月では、その現代語訳のうち、上記『和語燈録』連続講義の担当者の本庄良文氏作成の現代語訳を検討し、一応、その検討を終了した。なお、その本庄氏作成訳については、本庄氏自身が修正し、その修正資料を基に、当班研究会参加者が検討している。またその後、その他未検討の訳があるので、その訳の検討も参加者で行っている。更に、現代語訳検討のあと、本文訳註対照表の作成を行っている。

また、昨年度から本年度には、上記『和語燈録』連続講義の担当者である藤堂氏・眞柄氏・安達氏に、担当部分の校正を依頼し、その原稿を三氏より送付いただいている。

研究会の開催（平成30年1月～12月）

日 時	平成30年1月10日（水）10：45～12：05
場 所	8号館伊藤真宏研究室
参加者	研究員1名、班員3名

内 容 本庄氏担当訳の検討（「登山状（その一）」の「それあしたにひらくる栄花は」から末尾まで、及び「津戸三郎へつかはす御返事 第2通」の冒頭から「おしはかりあはれにおぼへ候。」まで。）

日 時 平成30年1月17日（水）10：45～12：05

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 研究員1名、班員3名

内 容 以下のとおり。

◇当研究班の今後の研究・作業についての話し合い。

◇本庄氏担当訳の検討（「津戸三郎へつかはす御返事 第2通」の「ただし无智の人にこそ、機縁にしたがひて」から末尾まで、及び「御消息（下）」の冒頭から「動乱破壊せられざれといへり。」まで。）

日 時 平成30年1月24日（水）10：45～11：55

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 研究員1名、班員3名

内 容 以下のとおり。

◇当研究班の今後の研究・作業・段どりについての話し合い。

◇本庄氏担当訳の検討（「御消息（下）」の「この釈の心は、まづわが身につきて」から末尾まで。）

日 時 平成30年10月9日（火）16：10～16：55

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 研究員1名、班員3名

内 容 以下のとおり。

◇現状把握。

◇現代語訳等未検討分の作業の今後の段取りについての話し合い。

◇出版物の大きさについての話し合い。

日 時 平成30年10月24日（水）10：40～12：10

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 研究員1名、班員3名

内 容 善氏担当訳の検討（「越中光明房へつかはす御返事」の冒頭から「悪をつくらんとおもひていふ事なり。」まで。）

平成30年度佛教大学法然仏教学研究センター活動報告

日 時 平成30年11月14日（水）10：45～12：00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 善氏担当訳の検討（「越中光明房へつかはす御返事」の「又念ぜずはその悪かの勝因をさへて」から末尾まで、及び「十二の問答（下）」の冒頭から「声を出さんとおもふべき也。」まで。 ※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。）

日 時 平成30年11月28日（水）10：45～12：05
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 善氏担当訳の検討（「十二の問答（下）」の「問曰、日別の念仏の数遍」から「善導は釈し給へ。」まで。 ※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。）

日 時 平成30年12月5日（水）10：45～11：50
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 善氏担当訳の検討（「十二の問答（下）」の「問曰、自力他力の事は」から末尾まで。 ※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。）

日 時 平成30年12月12日（水）10：45～12：05
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 善氏担当訳の検討（「一百四十五箇条問答（その五）」の冒頭から末尾まで。 ※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。）

日 時 平成30年12月19日（水）10：45～12：00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 善氏担当訳の検討（「一百四十五箇条問答（その十）」の冒頭から「御つかひによくよく申候ぬ。」まで。 ※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。）

第一部門 法然文献班 桑門秀我 『選擇本願念佛集講義』 現代語訳

班長 本庄良文

研究組織および専門分野

昨29年度より、班員は、囑託研究員の大谷旭充氏を加えて三名となっている。大谷氏は、主に、典拠の調査、訳文のチェックを担当している。

本庄 良文 仏教学部教授（浄土学・仏教学）

上野 忠昭 浄土宗浄願寺副住職（中国仏教・法然浄土教）

大谷 旭充 佛教大学大学院文学研究科仏教学専攻修士課程修了（法然浄土教）

平成30年度の研究

全部の草稿は、訳注の一部を除いて、ほぼ完成している。今年度は、『紀要』において、章ごとの成果発表は行わなかった。来年度中の前半部の出版に向けて、10月中旬までに出版素稿を準備し、業者に本製本、簡易製本などの複数の方法や部数ごとに見積りを依頼した。第一分冊の具体的な分担および予想頁数は、以下のごとくである。これに序説や多少の手直しが加わる予定で、全体では296頁程度を予測している。

序文	（5丁）	14頁	上野
第1章	（捨淨帰淨、40丁）	80頁	上野
第2章	（捨雜帰正、32丁）	64頁	上野
第3章	（生因本願、27丁）	54頁	本庄
第4章	（三輩念仏、17丁）	34頁	本庄
第5章	（念仏利益、07丁）	14頁	本庄
第6章	（特留念仏、09丁）	18頁	本庄
第7章	（光明摂取、09丁）	18頁	上野

研究会の開催（平成30年1月～12月）

従来通り、班としての研究会を行わず、メール等で互いの研究成果を相互点検している。対面では、上野氏が佛教大学での全体会に出席することのできる折に、情報交換を行っている。なお、大谷氏が秋より、東京から関西に帰ることとなり、情報交換がより容易になった。

第一部門 『逆修説法』 班 『逆修説法』 諸本対照本作成、古本『漢語燈録』を中心とする本文批判

班長 眞 柄 和 人

研究組織および専門分野

眞柄 和人 知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員（法然仏教伝承過程）
齋藤 蒙光 東海学園大学共生文化研究所講師（法然浄土教）
吉原 寛樹 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻修士課程修了（『逆修説法』研究）
岩谷 隆法 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（法然文献）

平成30年度の研究

善照寺本『古本漢語燈録』巻七・巻八を基礎資料として、他の諸本の本文を参照、比較対照しながら、『逆修説法』の訓読・現代語訳・注記を完成させる作業を行っている。平成28年度の研究会で下訳が完成しており、成果報告にむけて下記の通り見直し修正作業を進めている。

研究会の開催（平成30年1月から12月）

第65回研究会

日 時 1月15日（月）13：30～15：30
場 所 佛教大学15号館 研究室
参加者 班員（齋藤、吉原、岩谷）
内 容 吉原寛樹担当『写本集成』P195L6～P199L1の見直し修正作業。

第66回研究会

日 時 2月9日（金）13：00～15：30
場 所 佛教大学15号館 研究室
参加者 班員（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）
内 容 吉原寛樹担当『写本集成』P199L1～P202L6の見直し修正作業。

第67回研究会

日 時 4月13日（金）13：00～14：30
場 所 佛教大学15号館 研究室
参加者 班員（齋藤、岩谷）

内 容 齋藤蒙光担当『写本集成』P202L7～P206L9の見直し修正作業。

第68回研究会

日 時 5月11日（金）13：00～15：00

場 所 佛教大学15号館 研究室

参加者 班員（眞柄、齋藤、岩谷）、本庄

内 容 齋藤蒙光担当『写本集成』P206L9～P213L10の見直し修正作業。

第69回研究会

日 時 6月15日（金）13：00～14：15

場 所 佛教大学15号館 研究室

参加者 班員（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 齋藤蒙光担当『写本集成』P213L10～P216の見直し修正作業。

三七日までの2周日チェック作業終了。

第70回研究会

日 時 6月29日（金）12：30～14：00

場 所 佛教大学15号館 研究室

参加者 班員（眞柄、齋藤、吉原）

内 容 岩谷隆法担当『写本集成』P217L1～P220L4（四七日冒頭）の見直し修正作業。

第71回研究会

日 時 7月20日（金）12：30～14：10

場 所 佛教大学15号館 研究室

参加者 班員（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 岩谷隆法担当『写本集成』P220L4～P224L9の見直し修正作業。

第72回研究

日 時 10月26日（金）13：00～15：00

場 所 佛教大学15号館 研究室

参加者 班員（眞柄、吉原、岩谷）

内 容 吉原寛樹担当『写本集成』P224L9～P229L2の見直し修正作業。

第73回研究会報告

日 時 11月19日（月）12：30～14：00

場 所 佛教大学15号館 研究室

参加者 班員（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 担当吉原寛樹『写本集成』P229L2～P230L4の見直し修正作業。

第74回研究会報告

日 時 12月17日（月）14：10～15：30

場 所 佛教大学15号館 研究室

参加者 班員（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 担当吉原寛樹『写本集成』P230L4～P232L3の見直し修正作業。

第二部門 『摧邪輪』班 明恵 『摧邪輪』寛永版訓読・現代語訳

班長 米 澤 実江子

研究組織および専門分野

- 中御門敬教 佛教大学非常勤講師（インド・チベット浄土教／顕密の浄土教）
服部 純啓 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程
（珍海浄土教／法然浄土教と周縁思想家）
米澤実江子 浄土宗総合研究所嘱託研究員（日本仏教〔中世〕）

平成30年度の研究

『摧邪輪』には数本の写刊本が存在し、既に寛永年間版本を底本とした、書き下し（全）・校補（含、出典）注（全）・現代語（巻上）が公にされている。

当班では、平成25年より寛永年間版本巻中からの書き下し・註・訳の確認作業を始め、平成26年9月以降は研究会を開催せず、米澤が作業を継続している。

研究進捗報告

◆平成29年度（1月～）

- 1月：「巻中」現代語訳の再検討（～50丁オ）。
- 2月：4月全体会発表準備。
- 3月：4月全体会発表準備。

◆平成30年度

- 4月：「巻中」現代語訳の再検討（～52丁オ）。
- 5月：「巻中」現代語訳の再検討（～55丁オ）。
- 6月：「巻中」現代語訳の再検討（～55丁オ）※表記・註記について要再考。
『佛教大学 法然仏教学研究センター紀要』第5号、原稿準備。
- 7月：『佛教大学 法然仏教学研究センター紀要』第5号、掲載原稿準備。
- 9月：『佛教大学 法然仏教学研究センター紀要』第5号、掲載原稿作成。
- 10月：『佛教大学 法然仏教学研究センター紀要』第5号、掲載原稿作成。
- 11月：「巻下」（～4丁オ）。
- 12月：「巻下」（～5丁ウ）。

第二部門 門下班 門下研究目録作成

班長 伊 藤 茂 樹

研究組織および専門分野

伊藤 真宏 佛教大学 仏教学部 准教授（浄土学、日本仏教文化史）

伊藤 茂樹 法然仏教学研究センター嘱託研究員（日本仏教史、浄土宗学）

平成30年度の研究

法然門下班は、継続して門流の研究のデータを収集しデータ化している。本年度は、主に個別の研究目録の作成とデータ化に時間をかけ研究会の開催は行っていない。現在は伊藤茂樹が、長西・幸西研究を中心にまとめている。これまでの研究史もあわせ、公開を検討している。

なお本研究は、杉山憲哉氏（法然仏教学研究センター嘱託研究員）、齋藤善昭氏（佛教大学大学院修士課程修了）、加藤良全氏（佛教大学大学院修士課程修了）に研究協力をお願いしている。

第二部門 『往生要集鈔』 関係班 『往生要集鈔』 『往生要集義記』 諸本対照表・訓読・現代語訳

班長 南 宏 信

研究組織および専門分野

本庄 良文 研究員（浄土学・仏教学）
南 宏信 研究員（仏教文献学〔浄土学〕）

平成30年度の研究

・『往生要集義記』 訓読・現代語訳

適宜作業中である。

・『往生要集鈔』 諸本の翻刻

前年度の作業に加えて、引用典籍の確認作業を実施した。

また「良忠『往生要集鈔』が見た一切経の系譜」と題し、『仏教文化研究』63号で掲載予定である。

※上記研究は平成27年度～30年度科学研究費助成事業・若手研究（B）「中世における新出写本の文献学的研究」課題番号15K16621における研究成果の一部である。

研究会の開催（平成30年1月～12月）

班別研究会は開催していない。

第二部門 中国関係班 道綽『安楽集』解説・現代語訳・文献批判

班長 齊藤 隆 信

研究組織および専門分野

齊藤 隆信 研究員（浄土教思想、中国仏教）
曾和 義宏 研究員（浄土学、中国浄土教理史）
加藤 弘孝 嘱託研究員（中国仏教、浄土教思想）
永田 真隆 嘱託研究員（往生伝研究）
小川 法道 学術研究員（浄土教思想）

平成29年度の研究

毎回の研究会では『安楽集』の訳註を作成している。同書の訳註はこれまでも数回報告されているが、今回改めて訳註班を立ちあげたのは、宗典研究にありがちな依義判文や望文生義への反省がこめられている。ただし、これらをすべて否定し排除するのではないが、『安楽集』をいったん漢籍として、その語彙語法に注意を払いながら、一字一句ゆるがせにせず精読することにつとめている。その成果として第一大門の訳註を『法然仏教学研究センター紀要』第4号（2018年3月）に掲載した。

研究会の開催等（平成30年1月～12月）

【平成29年度】

第16回（通算78回）研究会

日 時：2月6日（火） 13：00-14：30

内 容：往生彼国勝者～問訊訖已各還本国

【平成30年度】

第1回（通算79回）研究会

日 時：4月10日（火） 13：00-14：30

内 容：第六大門中有三番料簡～是二証也

第2回（通算80回）研究会

日 時：4月24日（火） 13：00-14：20

内 容：三依此觀經中～西往必難

第3回（通算81回）研究会

日 時：5月15日（火） 13：00-14：20

内 容：是故智度論云～無不往也

第4回（通算82回）研究会

日 時：5月29日（火） 13：00-14：10

内 容：故須弥四域経云～一向乗相往生也

第5回（通算83回）研究会

日 時：6月12日（火） 13：00-14：15

内 容：第2大門の見直し

第6回（通算84回）研究会

日 時：6月26日（火） 13：00-14：15

内 容：第2大門の見直し

第7回（通算85回）研究会

日 時：7月17日（火） 13：00-14：20

内 容：第2大門の見直し

第8回（通算86回）研究会

日 時：9月19日（火） 13：00-16：40

内 容：第2大門の見直し

第9回（通算87回）研究会

日 時：10月16日（火） 13：00-14：20

内 容：第2大門の見直し

第10回（通算88回）研究会

日 時：10月23日（火） 13：00-14：20

内 容：第2大門の見直し

第11回（通算89回）研究会

日 時：11月13日（火） 13：00-14：20

内 容：第七大門中～故勸向彼

第12回（通算90回）研究会

日 時：11月27日（火） 13：00-14：20

内 容：第一此彼取相～何以得知

第13回（通算91回）研究会

日 時：12月18日（火） 13：00-14：20

内 容：如十地経云～方名無功用也

第三部門 伝宗伝戒班

『真葛伝語』 諸本蒐集および教理的根拠の探索

班長 眞 柄 和 人

研究組織および専門分野

- 眞柄 和人 知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員（浄土仏教学）
高津 晴生 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（浄土宗における戒）
武田 真享 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（日本浄土教）

平成30年度の研究

浄土宗傳法関係書『真葛伝語』の本文を確定と、訳注。
研究員の個別の関心に応じて、七祖聖阿の思想や菩薩戒の研究も進めている。

研究会の開催（平成30年1月～12月）

日 時：平成30年1月22日（月）16：30～17：30
場 所：佛教大学 8号館 4階 伊藤真宏研究室
出席者：眞柄、伊藤真、曾和、本庄、上野、武田、高津
内 容：「五重（自証）九個條」の推敲。
範 囲：47頁6行「第五五通五個……………」～49頁5行「……………授与するなり」

日 時：平成30年2月7日（水）13：15～15：00
場 所：佛教大学 8号館 4階 伊藤真宏研究室
出席者：眞柄、伊藤真、曾和、高津
内 容：「五重（自証）九個條」の推敲。
範 囲：49頁6行「三重は此れは……………」～53頁3行「……………相伝の本体なり」

日 時：平成30年2月21日（水）13：00～15：30
場 所：佛教大学 8号館 4階 伊藤真宏研究室
出席者：眞柄、高津
内 容：「五重（自証）九個條」の推敲。
範 囲：53頁3行「但、十処を指示するのみと……………」～57頁3行「……………差別あるに非ず」

と思ふべし」

日 時：平成30年3月1日（木）13：00～15：30

場 所：佛教大学 8号館 4階 伊藤真宏研究室

出席者：眞柄、伊藤真、曾和、高津

内 容：「五重（自証）九個條」の推敲。

範 囲：57頁3行「是の如く料簡すれば……………」～62頁2行「……………信ぜらるるなり」

日 時：平成30年3月7日（水）13：00～16：00

場 所：佛教大学 8号館 4階 伊藤真宏研究室

出席者：眞柄、伊藤真、曾和、高津、岩井（自由参加者）

内 容：「五重（自証）九個條」の推敲。

範 囲：62頁3行「されば安心請決に……………」～63頁2行「……………大機と云ふ」

日 時：平成30年3月12日（月）13：00～15：00

場 所：佛教大学 8号館 4階 伊藤真宏研究室

出席者：眞柄、伊藤真、曾和、高津

内 容：「五重（自証）九個條」の推敲。

範 囲：63頁2行「此の趣を形容して……………」～67頁8行「……………氣統の法、密家にもあり」

日 時：平成30年5月1日（火）13：00～15：00

場 所：清浄華院山内 佛教大学 浄山道場

出席者：眞柄、伊藤真、曾和、高津

内 容：「五重（自証）九個條」の推敲。

範 囲：67頁8行「夫れ此の伝は……………」～69頁9行「……………後賢、正し玉へ。」

日 時：平成30年5月22日（火）12：30～14：30

場 所：清浄華院山内 佛教大学 浄山道場

出席者：眞柄、伊藤真、曾和、高津

内 容：「宗脈（化他）五個條」の推敲。

範 囲：71頁1行「真葛伝語 夫れ化他せんと……………」～73頁7行「……………応ずるが如し。」

日 時：平成30年6月12日（火）12：30～14：30

平成30年度佛教大学法然仏教学研究センター活動報告

場 所：清浄華院山内 佛教大学 浄山道場

出席者：眞柄、伊藤真、武田、高津

内 容：「宗脈（化他）五個條」の推敲。

範 囲：73頁7行「是れ此の伝を……………」～75頁9行「……………一枚にして渡すなり。」

日 時：平成30年7月10日（火）12：30～15：00

場 所：清浄華院山内 佛教大学 浄山道場

出席者：眞柄、伊藤真、曾和、高津

内 容：「宗脈（化他）五個條」の推敲。

範 囲：75頁9行「今、謂はく……………」～80頁1行「……………直面最も仏に親し。」

日 時：平成30年7月30日（月）13：00～14：00

場 所：清浄華院山内 佛教大学 浄山道場

出席者：眞柄、高津

内 容：打ち合わせ（今後の研究の進め方、作業の役割分担など）

日 時：平成30年11月29日（木）

高津：「円頓戒口訣」の翻刻と現代語訳の訂正案を眞柄に提出。

第三部門 伝宗伝戒班
聖問『決疑鈔直牒』身延文庫本の研究

班長 南 宏 信

研究組織および専門分野

南 宏信 研究員（仏教文献学〔浄土学〕）

平成30年度の研究

・身延文庫本の翻刻

前年度の引き続き、翻刻作業実施している。翻刻は『法然上人研究』第9号に掲載予定である。

（平成31年3月刊行予定）

※上記研究は平成27年度～30年度科学研究費助成事業・若手研究（B）「中世における新出写本の文献学的研究」課題番号15K16621における研究成果の一部である。

研究会の開催（平成30年1月～12月）

班別研究会は開催していない。

法然仏教学研究センター組織

センター長	本庄 良文				
研究推進機構会議委員	中原 健二*	田山 令史	坂井 健	水田 大紀	
	荒井真太郎	上田 道明	緒方 由紀	松岡 千代	
	長谷川順子	森 智女	豊原 和子		
	川越 英子**				
運営会議構成員	本庄 良文*	曾和 義宏	伊藤 真宏	市川 定敬	
	田井 陽子				
	豊原 和子**				
職員	田井 陽子				

(*は委員長、**はオブザーバー)

研究組織

■「法然仏教の多角的研究」

研究員	本庄 良文	嘱託研究員	齋藤 蒙光
研究員	齊藤 隆信	嘱託研究員	加藤 弘孝
研究員	曾和 義宏	嘱託研究員	永田 真隆
研究員	伊藤 真宏	嘱託研究員	吉原 寛樹
研究員	市川 定敬	嘱託研究員	高津 晴生
研究員	南 宏信	嘱託研究員	岩谷 隆法
嘱託研究員	眞柄 和人	嘱託研究員	武田 真享
嘱託研究員	上野 忠昭	嘱託研究員	杉山 憲哉
嘱託研究員	中御門敬教	嘱託研究員	大谷 旭充
嘱託研究員	伊藤 茂樹	学術研究員	服部 純啓
嘱託研究員	米澤実江子	学術研究員	小川 法道
嘱託研究員	角野 玄樹		

活動記録（平成30年1月～12月）

平成30年（2018年）

- 1月9日(火) 研究会（第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』）
10日(水) 研究会（第一部門 法然文献班 『和語燈録』）
15日(月) 研究会（第一部門 逆修説法班 『逆修説法』）
16日(火) 研究会（第二部門 中国関係班 『安楽集』）
17日(水) 第14回研究推進機構会議
研究会（第一部門 法然文献班 『和語燈録』）
22日(月) 第7回法然仏教学研究センター研究会（法然仏教の多角的研究）
研究会（第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』）
23日(火) 第7回法然仏教学研究センター運営会議
24日(水) 研究会（第一部門 法然文献班 『和語燈録』）
31日(水) 第15回研究推進機構会議
- 2月6日(火) 研究会（第二部門 中国関係班 『安楽集』）
7日(水) 研究会（第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』）
9日(金) 研究会（第一部門 逆修説法班 『逆修説法』）
21日(水) 研究会（第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』）
28日(水) 第17回研究推進機構会議（第16回は中止）
- 3月1日(木) 研究会（第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』）
7日(水) 研究会（第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』）
12日(月) 研究会（第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』）
14日(水) 第18回研究推進機構会議
28日(水) 第19回研究推進機構会議
- 4月10日(火) 研究会（第二部門 中国関係班 『安楽集』）
11日(水) 第1回研究推進機構会議
13日(金) 研究会（第一部門 逆修説法班 『逆修説法』）
17日(火) 第1回法然仏教学研究センター運営会議
24日(火) 研究会（第二部門 中国関係班 『安楽集』）
25日(水) 第2回研究推進機構会議
27日(金) 第1回法然仏教学研究センター研究会（法然仏教の多角的研究）
- 5月1日(火) 研究会（第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』）

- 11日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
15日(火) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
16日(水) 第3回研究推進機構会議
22日(火) 第2回法然仏教学研究センター運営会議
研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
25日(金) 第2回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
29日(火) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
30日(水) 第4回研究推進機構会議
6月12日(火) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
15日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
19日(火) 第3回法然仏教学研究センター運営会議
22日(金) 第3回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
26日(火) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
27日(水) 第5回研究推進機構会議
29日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
7月3日(火) 研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
11日(水) 第6回研究推進機構会議
17日(火) 第4回法然仏教学研究センター運営会議
研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
20日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
25日(水) 第7回研究推進機構会議
30日(月) 研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
9月12日(水) 第8回研究推進機構会議
18日(火) 第5回法然仏教学研究センター運営会議
19日(水) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
10月3日(水) 第9回研究推進機構会議
9日(火) 第6回法然仏教学研究センター運営会議
研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
16日(火) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
17日(水) 第10回研究推進機構会議
19日(金) 第4回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
23日(火) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
24日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)

平成30年度佛教大学法然仏教学研究センター活動報告

- 26日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
- 11月 7日(水) 第11回研究推進機構会議
第7回法然仏教学研究センター運営会議
- 13日(火) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 14日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 28日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 12月 5日(水) 第12回研究推進機構会議
研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 11日(火) 第8回法然仏教学研究センター運営会議
- 12日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 17日(月) 第6回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
- 19日(水) 第13回研究推進機構会議